

# はにい 「メダカの餌はぼくに任せて！」

平成27年10月29日

入園したばかりの頃、園庭のプランターの下にいるダンゴムシに驚いていたA君。興味はあるもののなかなか触れずにいたあの頃が嘘のよう。今は色々な虫に興味をもち、進んで触れるようになりました。ダンゴムシとの出会いから半年、色々な生き物を見て触って、お世話をしてきました。次第に生き物に対して愛着の気持ちを抱くようになり、最近ではスズムシを手に乗せて散歩したり、羽の様子を観察したりして、気づいたことをのびのびと言葉で表現できるようになりました。

ある日、メダカを、うめ組で飼うことになりました。

「メダカに餌あげないといけないね。」A君は毎日登園すると、餌をもって水槽の所へ。

「餌を入れすぎると水が濁ってしまうから少しずつあげようね。」

「そうだね！」 スプーンに少し餌をすくって、「この位でいいかな？」

「いいね。」 喜んで餌を水槽に入れるA君。

するとメダカが餌に気づいて水面へ上がってきて餌を食べました。

「先生、メダカが食べたよ！」

「私も餌をあげたい！」「私も！」

「少しずつだよ、こうやってスプーンでとるんだよ。」A君は得意げに、友だちに教えてあげていました。



A君がいつものように餌をもって水槽の所へ行くと、メダカが水面に上がってきました。

「A君がきたらメダカが上がってきたよ。A君、ごはんくださいって言っているんだよ、きっと。」

「本当だ！ぼくのが分かるのかな。今餌をあげるからね！」

と満面の笑みで餌をあげました。

『はにい』はコミュニケーションツールです。みんなで語り合きましょう。  
ご意見・ご感想は [inochi4027@pref.kanagawa.jp](mailto:inochi4027@pref.kanagawa.jp)